

政策研究フォーラム・改革政策研究会(2010.9.30)

## 裁判官はどのように昇進するのか

明治大学政治経済学部・西川伸一

nisikawa1116@gmail.com

<http://nishikawashin-ichi.jimdo.com/>

@内容:はじめに

- 1 高裁長官8ポストの事実上の格付け
- 2 最高裁への事務総局ルートと司法研修所長ルート
- 3 最高裁への首席調査官ルートと法務省民事局長ルート
- 4 東京高裁管内地家裁所長各ポストの位置づけ
- 5 出身大学が出世を決めるのか  
むすびにかえて

1

はじめに

## なぜ福岡高裁長官から大阪高裁長官へ?

- 寺西和史(45期)名古屋地裁判事 組織犯罪対策法案反対派主催の集会(1998)に出席→戒告処分:「政治運動」

【表1:2010年6月17日付人事異動】

氏名	期	新ポスト	旧ポスト
大谷 剛彦	24	最高裁判事	大阪高裁長官
大野市太郎	24	大阪高裁長官	福岡高裁長官
池田 修	24	福岡高裁長官	東京地裁所長

- 「誰か、この横滑り人事を「高裁長官なんて大した仕事はしていないから」といった身も蓋もない理由や「前任の高裁長官である大野氏を、(給料は同じだがなぜか)福岡高裁長官より格上とみられがちな大阪高裁長官にした」といった下らない理由以外で説明できる人はいませんか?」『週刊金曜日』2010年9月3日、63頁。

2

## 1 高裁長官8ポストの事実上の格付け

## 高裁長官8ポストは同格ではない(1)

- 職業裁判官の最高裁判事→(昇進)→最高裁長官
- 15ポストの割り振り:職業裁判官6・弁護士4・学識経験者5(検察官2・行政官1・外交官1・学者1)
- 長官:服部高顕→竹崎博允 9人連続職業裁判官
- 竹崎は東京高裁長官から最高裁長官へ:例外
- 高裁長官→(昇進)→最高裁裁判官
- 「直接昇進」:下位ポストB→(昇進)→上位ポストA
- 「間接昇進」:B'→X(B'と同格)→(昇進)→A
- 「経歴的資源」:ある経歴がもつ高位ポストへの昇進資源 例)B>B'

3

## 1 高裁長官8ポストの事実上の格付け

## 高裁長官8ポストは同格ではない(2)

【表2:8高裁別の歴代長官就任者の最高裁裁判官への昇進状況】

高裁長官	歴代就任者数	最高裁裁判官昇進者数	直接昇進した者の数
東京	18	12	12
大阪	15	9	9
名古屋	18	3	1
広島	20	4	0
福岡	18	5	3
仙台	17	4	2
札幌	16	2	0
高松	16	0	0
未就任	1	1	1

★東京と大阪が最高裁裁判官昇進の経歴的資源として傑出している。

4

## 1 高裁長官8ポストの事実上の格付け

## 高裁長官8ポストは同格ではない(3)

【表3:8高裁別の歴代長官就任者における「初任」長官数】

高裁長官	歴代就任者総数	「初任」長官数
東京	19	5
大阪	16	8
名古屋	19	10
広島	21	16
福岡	19	16
仙台	18	17
札幌	17	17
高松	17	17

\*「初任」:当該高裁長官ポストがはじめての高裁長官就任であった者

★8高裁長官ポストの序列 上位:東京・大阪  
中位:名古屋・広島・福岡 下位:仙台・札幌・高松

5

## 2 最高裁への事務総局長ルートと司法研修所長ルート

## 東京高裁長官までの経歴的資源

【表4:東京高裁長官歴代就任者の経歴的資源】

	最高裁判官到達者	最高裁判官非到達者	合計
歴代就任者数	12	6	18
最高裁事務総局 事務総長	6	1	7
司法研修所長	0	1	1
東京高裁管内 地家裁所長	9	6	15
事務総局局長	10	4	14
事務総局課長・ 局付	12	5	17
東大・京大卒	12	6	18
男性	12	6	18

6

## 2 最高裁への事務総局長ルートと司法研修所長ルート

## 大阪高裁長官までの経歴的資源

【表5：大阪高裁長官歴代就任者の経歴的資源】

	最高裁裁判官到達者	最高裁裁判官非到達者	合計
歴代就任者数	9	6	15
最高裁事務総局 事務総長	2	1	3
司法研修所長	4	1	5
東京高裁管内 地家裁所長	6	2	8
事務総局局長	7	3	10
事務総局課長・ 局付	6	4	10
東大・京大卒	8	6	14
男性	9	6	15

7

## 2 最高裁への事務総局長ルートと司法研修所長ルート

## 東京高裁管内地家裁所長ポストの別格性

【表6：高裁管内別地家裁所長の高裁長官、最高裁裁判官への栄進率】

高裁管内	歴代地家裁所長総数	高裁長官昇進者(%)	最高裁裁判官昇進者(%)
東京	297	75(25.3)	22(7.4)
大阪	115	23(20.0)	2(1.7)
名古屋	129	10(7.8)	0(0.0)
広島	130	2(1.5)	0(0.0)
福岡	192	9(4.7)	1(0.5)
仙台	120	5(4.2)	1(0.8)
札幌	95	13(13.7)	0(0.0)
高松	103	4(3.9)	0(0.0)

★東京高裁管内の地家裁所長ポスト就任者は他の7高裁管内と比べて、高裁長官、最高裁裁判官への栄進率がきわめて高い。

8

2 最高裁への事務総局長ルートと司法研修所長ルート

**事務総長ルートと司法研修所長ルート**

- 「事務総長ルート」: 東大・京大卒→局付および／あるいは課長→事務総局局長→東京高裁管内地家裁所長→事務総長→東京高裁長官(2人は大阪)→最高裁裁判官  
 ★5人連続で就任＝確定的な経歴的資源
- 「司法研修所長ルート」: 東大・京大卒→局付および／あるいは課長→事務総局局長→東京高裁管内地家裁所長→司法研修所長→大阪高裁長官(1人は福岡)→最高裁裁判官

9

3 最高裁への首席調査官ルートと法務省民事局長ルート

**首席調査官ルート**

- 首席調査官(1)-上席調査官(3)-調査官(34)

【表7: 歴代最高裁首席調査官のキャリアパス】

歴代就任者数	9
最高裁裁判官	7
高裁長官	9
東京高裁管内地家裁所長	9
事務総局局長	5
調査官・上席調査官	7
事務総局課長・局付	9
東大・京大卒	8
男性	9

★東大・京大卒→局付および／あるいは課長→調査官あるいは上席調査官→東京高裁管内地家裁所長→首席調査官→高裁長官→最高裁裁判官  
 ★7人連続で就任＝確定的な経歴的資源

10

## 3 最高裁への首席調査官ルートと法務省民事局長ルート

## 現在の最高裁裁判官の昇進ルート

【表8:現在の最高裁裁判官の昇進ルート】

氏名	性別	大学	期	官名	昇進ルート
竹崎博允	男	東大	21	長官	事務総長ルート
近藤崇晴	男	東大	21	判事	首席調査官ルート
金築誠志	男	東大	21	判事	司法研修所長ルート
千葉勝美	男	東大	24	判事	首席調査官ルート
白木 勇	男	東大	22	判事	注
大谷剛彦	男	東大	24	判事	事務総長ルート

注:白木のキャリアパス 東大卒→事務総局課長→事務総局局長→東京高裁管内地裁所長→広島高裁長官→東京高裁長官→最高裁判事  
★事務総長ルートに準じている。

11

## 3 最高裁への首席調査官ルートと法務省民事局長ルート

## 法務省民事局長ルート

- 判検交流 裁判官の行政省庁等への出向
- 裁判官から検察官へ＝法務省幹部ポストに「裁判官」の指定席、最高峰は民事局長
- 香川保一(1期):1949任官→1950法務府(現法務省)出向→(法務省勤務)→1975法務省民事局長→1979.7東京高裁判事→1979.10浦和地裁所長→1981東京高裁部総括→1984札幌高裁長官→1985名古屋高裁長官→1986最高裁判事→1991定年退官

12

3 最高裁への首席調査官ルートと法務省民事局長ルート

## 最高裁裁判官昇進ルート別内訳

【表9: 最高裁裁判官昇進ルート別内訳】

総数	事務総長	司法研修所長	首席調査官	法務省民事局長	未経由
28	8	5	7	4	4

注: 千種秀夫(7期)は事務総長と法務省民事局長の両方を経験しているが、法務省勤務が長いので法務省民事局長ルートに入れた。

【表9b: 昇進ルート未経由者のキャリアパス】

未経由者	大学	期	局付/課長	局長	地家裁管内	高裁長官
大内恒雄	東大	高輪2	○	○	東京	名古屋→東京
四ツ谷 徹	東大	1	○	×	仙台	広島→東京
町田 顕	東大	13	○	○	東京	福岡→東京
白木 勇	東大	22	○	○	東京	広島→東京

★四ツ谷は28人中唯一の例外

4 東京高裁管内地家裁所長ポストの位置づけ

【表10: 東京高裁管内地家裁所長のその後の栄進】

所長ポスト	歴代就任者総数	高裁長官	最高裁裁判官
東京地	18	13	5
東京家	17	12	3
横浜地	18	12	2
横浜家	19	3	0
さいたま地	20	11	4
さいたま家	20	3	0
千葉地	21	12	2
千葉家	20	4	1
水戸地	23	8	2
水戸家	22	0	0
宇都宮地	22	6	2
宇都宮家	20	2	0
前橋地	22	10	3
前橋家	22	1	0
静岡地	20	4	1
静岡家	18	2	0
甲府地家	21	10	7
長野地家	21	3	1
新潟地	20	4	0
新潟家	20	4	0

★高裁長官有望ポスト:  
東京地裁、東京家裁、横  
浜地裁、さいたま地裁、  
千葉地裁、前橋地裁、甲  
府地家裁

★栄進からみた序列: 南  
関東地裁+東京家裁>  
北関東地裁>東京家裁  
以外の関東家裁、信越・  
静岡の地家裁

★最高裁有望ポスト: 甲  
府地家裁、東京地裁

5 出身大学が出世を決めるのか

## 出世を決めるのは学閥か「生産性」か

- 歴代最高裁裁判官28人中26人は東大・京大卒
- チャーマース・ジョンソン:「学閥は疑いなく日本の国家官僚機構において単独でもっとも重要な影響力をもっている」(ジョンソン、52頁)→司法部にも「東大閥」「京大閥」がある。
- マーク・ラムザイヤー:13期(1959年4月司法修習生)から15期(1961年4月司法修習生)までの裁判官255人が、それぞれ年平均で何件の訴訟を処理したかという「生産性」を算出。→「生産性」高い裁判官が出世している。出身大学の偏りは結果にすぎない。

15

むすびにかえて

## 司法官僚制と裁判官の独立の狭間で

- 「[出世レースで常に勝ち進むには]最高裁の勤務評定で良い成績をあげ続けること[中略]とともに、裁判官全体の主流派を占めている「良い派閥」に入り、その派閥のボスに忠誠を認められ、そのヒキを受けなければなりません。」(朔、45頁)

★前者が後者を圧殺しない制度設計と裁判官の意識改革を

### 参考文献

- ①朔立木(2001)『お眠り私の魂』光文社。
- ②チャーマース・ジョンソン、矢野俊比古訳(1982)『通産省と日本の奇跡』TBSブリタニカ。
- ③新藤宗幸(2009)『司法官僚』岩波新書。
- ④真淵勝(2010)『社会科学の理論とモデル8 官僚』東大出版会。
- ⑤J. Mark Ramseyer(2010), “Do School Cliques Dominate Japanese Bureaucracy? Evidence from Supreme Court Appointments,” prepared for a Conference on the Japanese Supreme Court at Washington University in St.Louis, September 2010.
- ⑥拙著(2005)『日本司法の逆説』五月書房。
- ⑦拙著(2010)『裁判官幹部人事の研究』五月書房。

16